

実践③ 与論町立与論中学校

1 はじめに

本校は平成29年度に創立70周年を迎えた鹿児島県の最南端にある与論島唯一の中学校である（3小学校区からなる。）。学級は6学級，生徒数は133人。

学校図書館は，教室棟とは渡り廊下でつながる別館1階にある。蔵書冊数8883冊。平成29年度の一人当たりの貸出冊数は，60冊。1978年より学校司書が配置され，現在では常駐している状況である。

2 本校での実践

(1) 生徒会（図書委員会）の活動

年間目標

「1人50冊を全員達成しよう」

年間の活動内容

- ・ 毎日の貸出と返却を担当するカウンター当番
- ・ 読書量調査と未返却者への呼びかけ
- ・ 委員会通信「fromライブラリー」の作成
- ・ 学級文庫の管理
- ・ 購入希望図書の取りまとめ



【fromライブラリーの掲示】

ア 図書委員会通信「fromライブラリー」の取組

「fromライブラリー」は，学年ごとに年4回発行している。

内容は，図書委員のおすすめの本や新着図書紹介，多読者の紹介等で，絵が得意な生徒のイラストが目を引き，楽しい内容となっている。「fromライブラリー」の発行は，10年間続いているため，生徒たちは当然のこのように作成している。

イ 読書旬間（2学期中の2週間）の取組

① 「fromライブラリーコンテスト」の実施

「fromライブラリーコンテスト」とは，全学級の「fromライブラリー」から順位を決定しているものである。生徒が昼休みに投票用紙を持って，図書館に掲示してある「fromライブラリー」から内容や分かりやすさ，レイアウトなど一番良いと思ったものに投票をする。コンテストの時は，作成に熱が入り，いつも以上の通信に仕上げてくる。全校生徒が図書館に関心を向ける行事である。



【コンテストの投票の様子】

② 図書委員による読み聞かせ

図書委員による読み聞かせを，朝読書の時間に大型絵本を使い，各学級で実施した。読んでいる図書委員も聞いている学級の生徒も共に笑顔でとても良い企画であった。

そのほかにも、図書館利用や読書を呼びかけるポスターを作成し掲示したり、放送によるお話し鑑賞、読書郵便、先生方のお薦めの本の紹介など工夫を凝らした活動をしたりすることができた。



【学級での読み聞かせ】

(2) その他の取組

ア 朝読書の実施

始業前の15分間に朝の読書（週3回）を行っている。
本の準備を忘れた生徒のために学級文庫を設置。学級文庫の本は、月に一度巡回している町立図書館の移動図書館から借りている。

イ 与論中学校必読60選

中学校の多感な時期に様々な本に出会い、豊かな中学生活になることを願って、全ての分類にわたり選定されたものである。入学した時、生徒一人一人に冊子にしたリストを配布する。生徒が手に取りやすいよう図書館入口付近に、必読60選の本のコーナーを設置している。



【必読60選のコーナー】

3 成果と課題

成果は、図書委員会が主体的に活動することで学校図書館を利用する生徒が増えたこと、様々な本の紹介を折に触れて行うことで選書内容が多岐にわたるようになったことである。

課題は、本を読む生徒と読まない生徒との個人差が大きいことである。そのため、読書の楽しさを伝える手立てや、PTAも含めた多様な読書活動を工夫する必要がある。また学習に役立つ蔵書を充実させ、学習センターとしての機能を持ち合わせた図書館の整備も進めていきたい。



【昼休みの図書館】

4 おわりに

生徒会（図書委員会）を中心に自発的に企画・運営を進めている。今後も、生徒のアイデアを生かしながら、主体的に取り組ませていきたい。そして、図書館から、少しでも本を読む楽しさ、大切さを感じ取ってくれるよう様々な手立てを講じ、情報を発信できるようにしたい。